

I 透析患者および腎移植患者における HCV 感染の現状

- point**
- ▶ 透析患者の HCV 陽性率は高く、陽性患者の生命予後は非感染患者と比べ相対的に不良である。
 - ▶ 腎移植患者においても長期生着患者で感染率が高く、陰性患者より生存率、生着率が有意に低下している。

透析患者の
HCV 陽性率

透析患者の HCV 陽性率はエリスロポエチン製剤の普及や感染予防により減少してきたとはいえ、2007 年の日本透析医学会の調査では 9.84 % の患者が陽性であり、なかでも透析歴 20 年以上で非常に高くなっている ^{参考 URL 1)}。

生命予後

Febrizi らはメタアナリシスで HCV 陽性透析患者の生命予後は非感染患者と比べ相対的に不良であり（相対リスク 1.34）、肝細胞癌や肝硬変などの肝疾患に関連した死亡率は 5.89 倍高いと報告している ¹⁾。

腎移植症例での
HCV 陽性率

腎移植患者においては、最近、先行的腎移植（透析導入前の腎移植）の増加などの影響もあって、新規腎移植症例の HCV 感染率は低下しており、日本臨床腎移植学会での 2015 年の集計によると生体腎で 1.8 %、献腎で 2.6 % と報告されている ²⁾。一方で長期生着患者をフォローしている施設での HCV 感染率は高く、田端らは 1990～2009 年間の生体腎移植症例で 5.2 % と報告しており ³⁾、当院でも 1990 年以降の生体腎移植症例の 4.9 % が HCV 陽性である。また HCV 陽性移植患者の予後は透析患者と同様に悪く、陰性患者より生存率、生着率が有意に低下し、その差は移植後経過期間が長くなるにつれて顕著になっている ^{3), 4)}。

HCV 陽性と
生存率、生着率

II 透析患者における CHC 治療

- point**
- ▶ PEG-IFN 単独療法が勧められているが、近年 IFN フリーの DAA が多数開発され透析患者に対しても DAA 治療が行われるようになってきた。

積極的抗ウイルス
療法の推奨
リバビリン

透析患者の CHC に対しては、2011 年に日本透析医学会から「透析患者の C 型肝炎ウイルス肝炎治療ガイドライン」⁵⁾ が示されている。生命予後の期待できる HCV 感染透析患者に対しては積極的に抗ウイルス療法を行うことが推奨されており、透析患者ではリバビリン（RBV）が禁忌であることからペグ

【用語解説】

- **先行的腎移植**
透析療法を経ないで行う腎移植で近年増加しており、生体腎移植の約 25 % を占めている。透析による合併症がないため、移植腎生着率、患者生存率が良好である。